児童発達支援センター　一宮市立いずみ学園　支援プログラム

理　　念	○子どもの育ちと本人及び保護者のニーズに寄り添いながら、関係機関や地域と連携し、子どもや家族の支援をします。		
支援方針	○生活や遊びの中で子どもの気持ちを受け止め、信頼関係をつくります。 ○いろいろな遊びや運動を通して、感覚及び運動機能の発達を促します。 ○食事、排泄、着脱、清潔などの生活を送るうえで欠かせないことを身につけられるよう支援します。 ○集団生活に必要な規律や社会性が身につくよう支援します。 ○保護者が子どもの理解を深め、安心して子育てができるよう、各家庭に合わせた支援を行います。 ○多職種の連携をもとに、専門的知識と技術をもって、療育を提供するよう努めます。		
営業時間	月～金曜日　　８時５０分～１６時１０分	送迎実施の有無	有
支援内容			
本人支援	健康・生活	○子どもの心身の健康状態を把握し、生活習慣や生活リズムを形成しながら健康で安全に過ごすことができるように努めます。 ○遊びの中で一人ひとりの気持ちを受け止めながら信頼関係をつくり、情緒の安定をはかります。 ○見通しが持てることで子どもが安心して自分で取り組めるよう、声掛けとともに視覚的ツールを活用し、構造化された生活環境を整えます。 ○食事、排泄、着脱、持ち物の始末などの身支度や基本的生活習慣（スキル）をスモールステップで獲得できるよう支援を行います。	
	運動・感覚	○日常生活に必要な姿勢保持や、上肢・下肢の運動・動作の習得及び向上のための支援を行います。 ○障害特性や発達の段階など、必要に応じて、座位保持椅子や食具等の補助的手段、補助機器を活用して支援を行います。 ○感覚（過敏、鈍麻）や認知の特性を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整などの支援を行います。 ○作業療法士による作業療法を行います。（個別）	
	認知・行動	○遊びのモデルを見せたり遊びに誘いかけたりすることで、子どもが遊びに意識を向けたり、遊び方を知ったりして、“やってみたい”と興味を持てるようにします。 ○「みる」「きく」「さわる」などの感覚を取り入れ、わかることやできることが増えるように支援します。 ○一人ひとりの特性に合わせた支援を行います。 ○一人ひとりの特性や発達、興味に合わせた自立課題を行います。	
	言語 コミュニケーション	○「言葉」と「物」「動作」が結びつくように、物や子どもの動作に簡単な言葉を添えて伝え、場面に合わせた言葉の理解や表出につなげていきます。 ○“楽しい”と思える活動や生活を通して、視線や発声、表情などから気持ちや思いをくみとりながら受け止め、一人ひとりに合った手段（指差し、しぐさ、ジェスチャー、絵カードなど）で意思のやり取りを行えるような支援をします。 ○言語聴覚士による言語療法を行います。（個別）	
	人間関係 社会性	○安心して過ごし、支援者との親密な関係を基盤に、周囲の人との安定した関係へと広がっていくよう支援をします。 ○日常生活や好きな遊びの中で“できた”と感じる経験を増やし、達成感や自己肯定感を育んでいけるような支援をします。 ○小集団での活動の中で、友だちの行動に目を向けかかわろうとしたり、「待つ」「ゆずる」などの経験ができるような支援をします。 ○思いが通らないなどで気持ちが高ぶった時には、ペースに合わせてかかわり、気持ちの発散や切り替えの方法を考えて支援をします。	
家族支援	○家庭訪問、個別懇談会、グループ懇談会を行います。 ○講演会などの機会を設け、保護者同士の情報交換や専門家の助言が受けられるようにします。 ○さまざまな相談に誠意を持って応じることで保護者の負担軽減を図ります。	移行支援	○子どもとその保護者のニーズを確認しながら移行先を一緒に考えます。 ○保護者の同意を得た上で、引継ぎ書類を作成し学園で行ってきた支援内容などについて転園先、就学先と情報共有することで、相互理解を図り、円滑に支援が移行できるように引き継ぎます。
地域支援・地域連携	○地域の保育園とのクラス交流、親子交流を行うことで障害の有無にかかわらず、全ての子どもがともに成長できるよう努めます。 ○地域の作品展に子どもの作品を出展し、地域の方に観ていただく機会を作ります。	職員の質の向上	○適切なサービスの提供ができるよう職員の業務体制を整備するとともに、職員の資質向上を図るため年１回以上の研修の機会を設けます。 （外部研修、園内研修、学習会など）
主な行事	入園式　　七夕会　　運動会　　親子遠足　　お楽しみ会　　クラス交流（年4回）　　お別れ会　　卒園式 集会・誕生会（月1回）　　保護者参観（年2回）		

作成日　２０２５年３月３日